

島村東太郎先生略歴

1. 学歴・職歴など

昭和13 (1938) 年 3 月 埼玉県に生まれる
昭和31 (1956) 年 3 月 東京都立九段高等学校卒業
昭和35 (1960) 年 3 月 東京教育大学農学部農村経済学科卒業
昭和37 (1962) 年 3 月 東京教育大学文学部英文学専攻卒業
昭和37 (1962) 年 4 月—41年 3 月 東京都立小山台高等学校教諭 (英語)
昭和41 (1966) 年 4 月 東京教育大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程入学
昭和43 (1968) 年 3 月 同 学 修 了
昭和43 (1968) 年 4 月—46年 9 月 小樽商科大学講師商学部
(英語教員養成課程の授業 (英文学) も担当した)
昭和46 (1971) 年10月—47年 7 月 宇都宮大学講師教養部 (英文学)
昭和47 (1972) 年 8 月—55年 3 月 宇都宮大学助教授教養部
昭和52 (1977) 年 3 月—53年 3 月 英国(ケンブリッジ大学客員研究員など)と米国で研究に従事
昭和55 (1980) 年 4 月—61年10月 宇都宮大学助教授教育学部
昭和59 (1984) 年 4 月—現在 宇都宮大学大学院教育学研究科修士課程担当
昭和61 (1986) 年10月—現在 宇都宮大学教授教育学部 (英文学)
平成 6 (1994) 年 4 月—9 年 3 月 宇都宮大学教育学部附属養護学校校長 (併任)
平成 8 (1996) 年 4 月—9 年 3 月 日本教育大学協会理事
平成13 (2001) 年 4 月—現在 放送大学非常勤講師 (英文学と英語)
平成15 (2003) 年 4 月 1 日 宇都宮大学名誉教授

2. 学会および社会における活動など

昭和41 (1966) 年 4 月—現在 日本英文学会・会員
昭和41 (1966) 年 4 月—現在 大塚英文学会・会員。機関誌『Otsuka Review』
昭和43 (1968) 年 4 月—46年 3 月 日本英文学会北海道支部・会員。
機関誌『北海道英語英文学』

昭和46 (1971) 年10月～現在	宇都宮大学外国文学研究会・会員。 機関誌『外国文学』
昭和46 (1971) 年11月～現在	日本バーナード・ショー協会・会員。
1971～74年	会報『GBS』初代編集担当幹事（編集長）、
1992～2000年	第4代編集担当幹事、
2000年5月～現在まで	第6代会長。
昭和53 (1978) 年1月～現在	The Bernard Shaw Society of America・会員
昭和55 (1980) 年1月～現在	The Bibliographical Society・会員
昭和59 (1984) 年10月～平成13年3月	IASIL-JAPAN (俗称・日本アイルランド文学会)・ 会員。1997～2001年まで会計監査。
昭和60 (1985) 年1月～現在	The Society for Theatre Research・会員

3. 教育研究業績など

3. 1. 著書（いわゆる「共著」2冊を含む）

1. 日本バーナード・ショー協会編 『バーナード・ショー研究』東京：学書房、昭和61（1986）年。（共著）
2. 『英語教育稿』 東京：東京教学社、平成3（1991）年11月。（単著）
3. 『バーナード・ショー研究序説』 東京教学社、平成4（1992）年2月。（単著）
4. 『バーナード・ショーとコート座』 東京教学社、平成4（1992）年3月。（単著）
5. BCJA編 『BCJAの本』 東京：風人社、平成10（1998）年5月。（共著）

3. 2. 論文・研究ノート・翻訳（日本文学から英訳1点）など

1. 「読本との連関」、開隆堂『英語教育』第18巻5号（昭41.9），pp. 32-33.
2. 「*Saint Joan*のEpilogueについて」、日本英文学会北海道支部機関誌『北海道英語文学』第14号（昭44.夏），pp. 39-47.
3. 「*Candida*における舞台と観客」、小樽商科大学『人文研究』No. 41（昭45.8），pp. 81-100.
4. 「1843年英国劇場法の内容」、小樽商科大学『人文研究』No. 42（昭46.3），pp. 77-96.
5. 「『人と超人』における機知と諷刺」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』秋沢教授記念号（昭47.3），pp. 52-63.
6. 「ナイダの翻訳論」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 21（昭48.3），pp. 14-23. Reprinted in 『英語学論説資料』Vol. 7, No. 1（昭48年分），pp. 125-129.
7. 「外国語としての日本語教育の試み」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 23（昭50.2），pp. 119-147.

8. 「翻訳二題 ― ①合本『藤村詩集』序、②与謝野晶子『みだれ髪』から一首」
宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 24 (昭51.3), pp. 68-72.
9. 「アテネで」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 25 (昭52.3), pp. 34-41.
10. 「コート座におけるVedrenne-Barker Performances」、『宇都宮大学教養部研究報告』
第11号第1部 (昭53.12), pp. 41-54.
11. 「G. B. ショー文書」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 7 (昭53.12),
pp. 3-5.
12. 「英国の紙幣 (“I PROMISE TO PAY. . . .”）」、宇都宮大学外国文学研究会
『外国文学』No. 27 (昭54.2), pp. 71-73.
13. 「G. B. ショーのMSS」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 28 (昭
55.3), 38-47.
14. 「G. B. ショーと英米の図書館」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』
No. 29 (昭56.3), pp. 33-45.
15. 「Pygmalionの本文」、大塚英文学会 *Otsuka Review* No. 17 (昭56.8), pp. 53-67.
16. 「サヴォイ座とヘイマーケット座におけるヴェドレン＝バーカー興行1907-
1908」、『宇都宮大学教育学部紀要』第31号第1部 (昭56.12), pp. 1-9.
17. 「文学と文学教育」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 30 (昭57.3),
pp. 76-100.
18. 「The Language Laboratoryと英語教育」、『宇都宮大学教育学部教育工学センタ
ー紀要』No. 5 (昭57.3), pp. 3-13.
19. 「『ピグマリオン』の本文、補遺」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 10
(昭57.12), p. 7.
20. 「*Saint Joan*における事実と虚構」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』
No. 31 (昭58.3), pp. 24-34.
21. “Shaw's Technique in Scene One of *Saint Joan*”, 宇都宮大学外国文学研究会
『外国文学』No. 31 (昭58.3), pp. 142-151.
22. 「英語の聴解における困難点の分析」、『宇都宮大学教育学部教育工学センタ
ー紀要』No. 6 (昭58.3), pp. 17-25.
23. 「英国の紙幣の流通」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 32 (昭59.
3), pp. 1-14.
24. 「1956年のコート座」、『宇都宮大学教育学部紀要』第35号第1部 (昭59.12),
pp. 7-18.
25. 「1899年から1901年にかけての、ロンドンにおける劇場の取締り」大塚英文学
会 *Otsuka Review* No. 21 (昭60.8), pp. 20-36.
26. 「イギリス人の生活 ― 今日と明日」、『宇都宮大学・公開講座講義要旨』(昭
60.8), pp. 104-110.
27. 「立ち遅れた日本の書誌学」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 34
(昭60.10), pp. 73-77.

28. 「G. コウルマンとR. サウズィ」、『宇都宮大学教育学部紀要』第36号第1部（昭61.2）, pp. 7-12.
29. 「『ミカド』の、横浜ゲーテ座における1887年の初演」、大塚英文学会 *Otsuka Review* No. 22（昭61.8）, pp. 9-22.
30. 「*Mrs. Warren's Profession* の本文」、大塚英文学会 *Otsuka Review* No. 23（昭62.8）, pp. 11-16.
31. 「複合名詞と複合形容詞の教え方」、『宇都宮大学教育学部教育実践研究指導センター紀要』第11号（昭63.3）, pp. 52-63.
32. 「『ウォレン夫人の職業』削除版の本分」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 15（平2.10）, pp. 5-6.
33. 「ショー研究をふりかえって」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 17（平5.10）, pp. 7-8.
34. 「ダン・H. ロレンス文書とS.P. アルバート文書」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 43（平6.2）, pp. 1-11.
35. 「Niagara-on-the-Lake, Ontario. —18世紀末と今日—」宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 43（平6.2）, pp. 29-43.
36. 「カナダの芸術における独自性」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 18（平7.10）, pp. 6-7.
37. 「1905年、劇作家バーナード・ショー登場」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 45（平8.2）, pp. 37-45.
38. 「ヴァージニア・テックにおける、1992年のショーの会議」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 19（平8.10）, p. 9.
39. 「B. ドハティとG. B. ショー」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 20（平9.6）, p. 7.
40. 「バーナード・ショー登場」、BCJA編『BCJAの本』 東京：平成10年5月。
pp. 47-49. [3.1. の(5) と同じもの]。
41. 「カナダにおける2つの演劇祭」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 21（平10.6）, pp. 7-8.
42. 「カナダの演劇祭」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 48（平11.3）, pp. 57-63.
43. 「*GBS* 発刊のころのこと」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 23（平12.7）, p. 1.
44. 「ヴィクトリア朝の人々をつきとめる」、日本バーナード・ショー協会 *GBS* No. 24（平13（2001）.10）, pp. 1-2.
45. 「バーナード・ショー学者のダン・ロレンス先生」、宇都宮大学外国文学研究会『外国文学』No. 52（平15（2003）.3）, pp. 87-95.

3. 3. その他（編集、教科書、書評、教育に関するものなど）

1. （会報の編集）*GBS* Nos. 1 - 2 （大修館書店から発行）。
GBS Nos. 17 - 22 （学書房から発行）。
2. （共編著）I. B. Singer, *In My Father's Court* 東京教学社、昭48（1972）年10月。
3. （書評）「山本達雄『バーナード・ショー——虚構と現実』開文社」、『英語青年』
Vol. 128, No. 2（昭57（1982）年5月号），pp. 137-38.
4. （教育に関係するもの——いわゆる共著2冊も含む）
 4. 1. 「附養のことなど」、栃木県高等学校長会『会誌』No. 22.（平成7（1995）年3月），pp. 72-73.
 4. 2. 「野外教育——養護学校の場合」、『青少年問題』（平成8（1996）年8月号），pp. 12-17.
 4. 3. 「出会いのおもしろさ・人生の楽しさ」、栃木県高等学校長会『会誌』No. 25.（平成10（1998）年3月），pp. 36-38.
 4. 4. 「希望のともし火を、高くかかげて」、『わが道を歩む——埼玉・栃木・群馬編』（上巻） 東京：文教図書出版、平10（1998）年3月。
 4. 5. 「希望のともし火を、高くかかげて」〔一部を修正〕、『わが人生論——青少年へ贈る言葉』（全国版） 東京、平11（1999）年5月。

平14（2002）年12月

以上